

1 目的

曾於郡大崎町は、温暖な気候を活かし、マンゴーやパッションフルーツなど、ハウスでのトロピカルフルーツ栽培が盛んである。また、本町は「食」でもてなす「陸上競技の聖地」実現プロジェクトに取り組んでおり、今後、交流人口の増加が期待されるなど、本町の農畜産物を消費者にアピールする絶好の機会がある。そこで、これらの強みと機会を活かし、第3の“新”特産フルーツとしてマンゴーなどと同じ熱帯果樹であるパイナップル栽培の可能性を検証し、地域への波及も期待して実証に取り組むこととした。



写真 1 定植作業

2 実施状況

(1) 栽培実証

平成 29 年 12 月に定植したパイナップルが生育し、平成 30 年夏から、年 2 回の収穫が可能となった。面積拡大を見込んで苗の購入を予定していたが、自家育成苗に切り替えて苗の確保を図った。



写真 2 パイナップル生育の様子

(2) 加工品試作と PR 活動

パイナップルの安定的な販売につなげるため、加工品の試作を行った。乾燥パイナップルとパイナップルゼラートの 2 種について試作し、試食を兼ねた町イベントでの PR 活動を行った。食味調査は良好であり、コスト計算を行ったところ、夏場は完熟での青果販売、甘みが落ちる冬場ではゼラート加工に可能性が示された。



写真 3 活動 PR と加工品試食

(3) 地域への活動紹介と地域への波及

本活動について、平成 30 年度曾於地区青年農業者会議においてプロジェクト発表を行った。参加者からは大崎町でパイナップル生産を行うことについて高い評価が得られた。

OACクラブを参考に、他地区の青年クラブが新たに共同プロジェクトに取り組むなど地域への波及効果が生まれた。また、活動全体を通じてOACクラブ活動が活性化し、H29年度当初より4名のクラブ員が増加につながった。

3 今後の課題、取り組み

パイナップル苗の自家育成を継続して、面積拡大を行い、生産量の増加につなげる計画である。また、将来は町のふるさと納税返礼品への提供、町に新しくできたジャパンアスリートトレーニングセンターへの販売などについても協議を行って行く予定である。



写真 4 プロジェクト発表